SINAPIS

社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

月刊シナピスニュースレター

Vol. 113

2025. 10

年間テーマ　～戦後 80 年、平和の巡礼者として、祈り、行動しよう～

世界は苦しみに満ちて

いるが、それでも桜は咲く

小林一茶

この絵と俳句は、のとボランティアで知り合った方の病気の報せを受けて
イラン人難民申請者がその方の回復を祈って描いたお見舞いの作品です

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。
イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、
愛し合うように願って平和の種をまき、
やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

カトリック大阪高松大司教区
社会活動センター・シナピス

TEL/06-6942-1784　FAX/06-6920-2203
Email/sinapis@ostk.catholic.jp
ホームページ/https://sinapis.osaka.catholic.jp/

巻頭言

被災者との出会い

カリタス担当　　松永（まつなが）　敦（あつし）神父

今年、神戸は阪神淡路大震災から 30 年を迎えました。能登では今も被災者の方々が大変な思いをして暮らしておられます。

活断層の多い日本にあって地震は誰もが度々経験するものです。私も地震は何度も経験してきましたが、被災者に出会ったのは東日本大震災の時が初めてでした。

2012 年の夏に、上長の許可を得て、1 か月ほど南三陸でボランティアをさせていただきました。当時は漁業支援のボランティアがほとんどでした。
主日は他の地域の教会へ行き、ミサにあずかっていました。

ある日のミサのあと、60 代の男性が被災地を車で案内してくださることになりました。
目にする光景に言葉を失い、説明を聞いたはずなのに、ほとんど覚えていません。
その男性が最後に連れて行ってくださったのが、ご自宅があった場所です。
海も山も近い場所で、定年後の第 2 の人生を妻の故郷で過ごそうと、震災の半年前に引っ越したばかりだったそうです。
土台だけが残された土地にその方はたくさんのひまわりを植えておられました。
「ここを訪れた人に元気を与えたいから」

ある主日は、日帰りで福島へ行きました。ベースのスタッフに誘われたのです。
当時、原発から 20 ㎞圏内は警戒区域になっていたので、恐怖心がありました。なので、最初は行くかどうか迷いました。が、実際に行って、20 ㎞圏内の南相馬市に入って、目にしたのは、自転車に乗る中学生の姿でした。非常にショックを受けたことを覚えています。

日帰りでも行くのが怖いと思っていたのに、その中学生は事故前と変わらずそこで生活をしていたのです。ご家族も不安だっただろうことは想像に難くありません。

被災者のことを書きながら、思い出したのは 2016 年の教皇フランシスコのツイートです。
「難民は数字ではありません。彼らは顔や名前、それぞれの物語を持った人間なのです。
だからそのように待遇される必要があります」

被災者にも一人一人に顔があり名前があり、物語があります。
いつも心に留めておきたいものです。

障がい者委員会より

ChatGPTに聞いてみた

カトリック教会のミサにおける「合理的配慮」とは

吉川（よしかわ）　康夫（やすお）

カトリック教会のミサにおける「合理的配慮」とは、障害のある人々が他の信者と同様に信仰生活を送ることができるよう、 必要かつ適切な支援を行うことを意味します。

これは、キリストの教えである「すべての人は神の前で平等である」という理念に基づき、人間の尊厳を守るための実践でもあります。

合理的配慮は単なる「特別扱い」ではなく、共に神の子として生きるための愛の実践です。カトリック教会がこの精神を具体的に体現することで、すべての人に開かれた神の家としての姿がより明確になるのです。まず、聴覚障害者への配慮として、手話通訳の導入や要約筆記の提供が挙げられます。特にミサの中での朗読や説教は信仰形成に深く関わるため、情報の保障は不可欠です。また、視覚障害者には点字のミサ典礼書や拡大文字の資料を用意することが望まれます。
音声による解説や付き添いの信者によるサポートも大切です。身体障害者への配慮では、バリアフリー化が重要です。
聖堂の入口や内部の段差をなくし、車椅子対応のスペースやトイレを整備することで、安心して参加できる環境が整います。また、知的・発達障害を持つ人々には、簡易な表現で福音を伝える「やさしいことばの典礼」や、個別のペースに合わせた信仰教育の提供が求められます。さらに、教会共同体全体として、障害のある人々を単なる「受け手」ではなく、共に信仰を担う仲間として受け入れる姿勢が大切です。
そのためには、教区や小教区レベルでの理解促進や研修も必要です。

※情報保障が義務化になりました。 教区障がい者委員会では、カトリック教会における情報保障のガイドラインを作りたいと考えています。 手話や要約筆記に点字やバリアフリーにばかりが気になりました。

今回ChatGPTに質問すると、一番大事な基本のこと“神の前で平等”、“信仰形成に深く関わる情報の保障”、“「受け手」ではなく、共に信仰を担う仲間として受け入れる”などなど、 AI（人工知能）に教えられることがたくさんありました。

すべてのいのちを奪う月間 —— ジェノサイド・ビジネス

シナピス運営委員　西口（にしぐち）　信幸（のぶゆき）

貧しい者を踏みつけ 苦しむ農民を押さえつける者たちよ。
わたしは、彼らが行ったすべてのことを いつまでも忘れない。
アモス書 8:4, 7

「すべてのいのちを守る」ための月間は、私たちニンゲンの愚かさを示すジェノサイドによって「すべてのいのちを奪う」月間になりました。天の国で教皇フランシスコは悲しんでおられるでしょう。なぜ世界がジェノサイドと知りつつ黙殺し続けるのか、それはジェノサイドがビジネスとして私たちの資本主義経済を支える存在になっているからです。人権第一と言いながら、自分の生活を支えるため、小さな我慢をすることもなく、ガザの人たちを踏み続けているのです。

忘れられたガザの「飢餓」 —— 「喉元過ぎて」話題にも上りません。しかし確実に、もっと厳しく飢餓はガザの人々に迫っています。どうか忘れないでください。

アル・ザイトゥーンは町の面影もなく消滅しました。
1,600の住宅ビルを破壊し、13,000のテントを破壊し、35万人の人がガザ市東部から西部に着の身着のままで逃れています。ジャーナリストの殺害、電力、ネット遮断によって今、ガザ市の消滅が、密かにしかし確実に「制圧」が進みつつあります。

ガザ市西部には東中部から逃げて野宿する人を含み70万人ほどの人が残っています。その中には由緒あるキリスト教会も含まれます。カトリック教会には動くことが困難な人も含めて600人ぐらいの人がいます。移動には１件50万円程度の費用がかかります。避難する人々の姿、積荷を見て異常さを理解できるかと思います。これは移住ではありません。ぎりぎりのいのちの選択を迫られ、もう二度と戻れない「故郷」を胸に秘めながら、親から託されたガザの「魂」が失われることへの弔いの行進なのです。

1948年ナクバでガザに逃れ、故郷に戻ることを夢見て何世代もガザ北部に留まった人々は、第２のナクバでガザが奪われることを知っています。それならば、いっそこの地と共に死を選ぼうと、ひとときの停戦で凱旋した人々です。爆撃を受けながら、南へ逃げることを強制されています。
— 人々はどこへ行けばいいのかわかりません。南部もすでにいっぱいで、待っているのは「人道都市」と言われる、二度とガザには戻れない強制収容所です。

ハマスは全ての人質を解放するとアメリカに伝え、カタールで停戦合意が結ばれるはずでした。カタールへのミサイルは人質がイスラエルの口実であったことを知らしめました。

アラブ諸国は非難だけで、アメリカへの恭順を示します。22日の国連総会で、世界はパレスチナの国家を承認し、２国家解決に向けてアクションを起こす宣言を行いました。しかし国連と同様に宣言だけで終わる様相を示しています。ガザは5000年の歴史の幕を降ろすことになります。

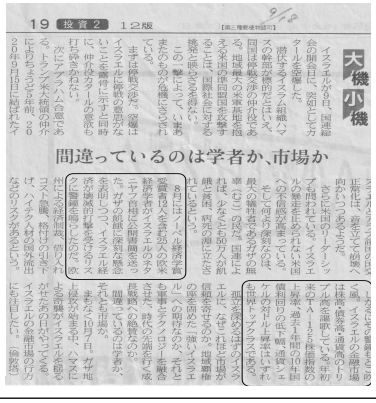
国連、国際社会はガザのジェノサイドをなぜ止められないのか？

その答えは証券取引所にあります。ずばり、「今」世界中が儲かるからです。

2年間続くジェノサイドはジェノサイド・ビジネスを成長性のある優良株に成長させました。日本の年金のお金も投資され、兵器産業を潤しており、投資家の買うビジネスを止める政権はありません。

9月18日 日経新聞 ― 間違っているのは学者か、市場か

ノーベル経済学賞受賞者、他はイスラエル経済の壊滅的打撃を受けるリスクの警鐘を鳴らした。しかし警鐘もどこ吹く風、イスラエル金融市場はトリプル（株、債権、通貨）高を謳歌している。



19 投資2 12版

大機小機

間違っているのは学者か、市場か

ジェノサイド・ビジネスを生んだ「ガザ戦争」

戦争ビジネスが優良事業であることは資本主義経済の歴史が示す通りです。ガザのジェノサイドはそれに加えて、①殺戮技術を実証できる実験場をガザが提供したこと、②民族浄化によって得られる開発案件があること、特に②項ではトランプ「リビエラ」発言により民族浄化がビジネス化され、国連、国際NPOはただ立ちすくむのみです。

ガザはテルアビブの絶滅ショールーム

「ガザ戦争」はジェノサイドをビジネスとして位置付け、ドローン、AI兵器などのハイテク兵器や特殊ミサイル、対人地雷、ありとあらゆる兵器の実験場としました。ガザでテストされた結果は明日、他の場所で展開されます。アメリカからの１兆円を上回る武器供与もあり、ジェノサイド・ビジネスは隠れた成長産業になっているのです。そして「ラベンダー」や「ゴスペル」などの世界初のAI支援ツールは、Google、Meta、Microsoftなどの巨大IT企業も巻き込んで、次の戦争ビジネスを産んでいきます。

資本主義社会に組み込まれたジェノサイド

ガザ人道財団（GHF）は紛争地域ビジネスとして投資集団から生まれました。トランプのリビエラ発言に大きなインセンティブを受けて、ボストン・コンサルティングなどを中心にして生まれた植民地ビジネスの財団です。人道支援に名を借りて、食糧支援を求める市民を殺害する、全く非人道的な意図的なジェノサイドを始めました。世界はこの非人道性に慣れて、次に来る土地の収容、民族浄化に対する感情障壁を低くさせる意図が含まれています。すでに子どもや女性を含み5000人をこえる市民が狙い撃ちにされています。地獄以外の何ものでもありませんが、伝えられるのは数字だけ、私たちの感覚は麻痺させられています。

ガザ暫定統治機関（Gaza Transitional Authority：GITA）

トニー・ブレア元英国首相が「ガザ戦争」後に統治する移行機関を設立する計画を提案しました。イスラエルの「ガザ2035」の具現化されたものですが、その利権に群がるのは、アラブ諸国を含む世界中の国々、リビエラだけではなく一大ビジネス拠点の構想に繋がります。

私たちは今、どんな世界に住んでいるのでしょうか。非人間化された資本主義社会ではジェノサイドでさえビジネス構想を生み出して経済を潤し、私たちの物質的な生活に満足を与えます。私たちは言葉では寄り添うと言いながら、日常生活を大事にするため、関わりを持たないように目を閉じます。そして周辺に置かれた、声を出さない人を見ないようにして抹殺しています。これはガザだけではありません。2000年前のユダヤ人社会でもそうでした。イエズスが生まれた地のそば、ガザで今起きているのは偶然ではありません。神さまからのメッセージです。

能登ボランティア報告（9/2―9/5）

次回は、息子のさとしと参加したい

モレノ・ネリ

１日目：重蔵神社での片づけ（輪島市）

午前中は本殿奥のがれきを片づけ、 釘が刺さったもの、 どうやって作ったの、 と思うほど複雑なものばかりで、 こんなものを壊す地震の力に驚いた。 のこぎりでがれきを小さくするなんて、「力も必要だし私にできるかな」 と初めは思ったけど、 皆で始めて、 少しずつ夢中になって働くと、 気が付けば終わっていた。 女性の私にはできない作業もあったけど、 そこは力のある男性たちが助けてくれた。 グループのみんなとのつながりに感謝。 みんなとうまくできるか、気にして能登まで来たけど、そんな心配はらなかった。

午後は、本殿の裏で木の枝を切る作業。 めぐみさん（東京教区の青年）が切っているのを見て、私もトライした。 みんなの姿に励まされて、 ボランティアができることを感じた。 最後の木を切っていた時、 サデギさん（シナピス）が 「ネリさん、もうやめてもいいよ、ぼくがするから」 と声をかけてくれた。 私は 「水だけ飲みたい」 と言って離れて、 戻ってみると、 木はきれいになっていた。
仲間の気持ち、優しさに感動した。「私たちはこんなことができたんだ」、きれいになった木を眺めて、少し誇らしい気持ちになった。

２日目：公費解体前の家財整理（七尾市）

荷物を分別する作業は、 簡単に思っていたけど、 ものすごい量で、 経験が必要と思った。 暑さと疲れで、 やればやるほど、 どこに分けたら良いのか迷いだし、 分からなくなった。 途中、「可燃ゴミの袋の中からハサミが出てきたから注意して」 と言われ、 丁寧に確認する、でも少し急いでやることの難しさを感じた。 座ってばかりのシナピスを離れて、 外での作業を続けていると、 普段は見られない姿を発見できて、 うれしかった。

３日目：合田さん訪問（輪島市）

合田さんが 69 歳で車の免許を取ったと聞いて、 何事もあきらめたらだめ、 やりたいと思えばできると思った。 山奥に一人で住んでいることは感心するけど、 独りぼっちでいることは少し寂しい。

お手伝いに来たのに、「畑の作業は私が明日するからいいよ 」と笑って、一緒に昼食を準備し、 ゆっくりおしゃべりしながらお昼の時間をすごした。

合田さんは、 本当に優しいおばあちゃん。 郵便も宅急便も届かないところで、家族との思い出がしみ込んだ家から離れずに暮らしている彼女から、人生の大事なこと、教えてもらった気がする。

ボランティアに参加して

土や木など、 自然のことには今まで無関心だったけど、 もっと知りたいと思うようになった。 日本でたくさんの人にこれまでお世話になってきたから、 何かお返しをしたいと思っていた。小さなことでも人のためにできる何かをして、 つながっていきたい。

そんなつながりが、切れない鎖のように固いものとなっていったら素敵だ。

仲間たちの笑顔や被災者が喜ぶ姿は、 私にとって大きな励ましになった。

次回は、息子のさとしと一緒に参加したい。

（この文章は、ネリさんの話をシスター マリアに通訳していただき、シナピス・スタッフがまとめました）

シナピスメンバーに、ありがとう

太田（おおた） 舜祐（しゅんすけ）

今回、能登半島への復興支援ボランティアに参加させていただいたきっかけは、「失業中で暇してるなら行ってみる？」 と知人に誘われたからである。３泊４日の間シナピスの方たちと行動を共にし、被災地の復興があまりに進んでいない現状を目の当たりにする。 参加して感じたことの一つに、ボランティアに参加した様々な人種・個々人の考えや感情。そして被災者の想いに少し触れ、同じ国内なのにこれほど生活環境が違う事やそうした現在を知らずに生活していた自身の浅はかさを感じる。だが、現地での体験を通して自分自身が一回り成長できたこと、きっかけは紹介であったが、シナピス・カリタスと繋がりを持てたことに感謝である。 自分に精神的・経済的にも余裕があるときには、タイミング次第ではあるが、次回以降も積極参加していきたいと思いました。

自分の日常では体験できなかった経験を体験させてくれたシナピスメンバーにありがとうございます。

3 度目のボランティアで感じたこと

事務局　大森（おおもり） 雄二（ゆうじ）

3 度目ともなると、連続参加の難民さんたちはカリタスのとサポートセンター（以下、サポセン）のスタッフと、家族との再会を喜ぶようにハグをします。

そして、シナピスチーム、結構、力仕事こなすぞといううわさが流れているのか、最初の 2 日間の作業はなかなかハードなものでした。

サポセンは 10 月から、再建された輪島教会にボランティアベースを開きます。それは、まだそれだけ、被災者からのニーズがあるというしるしで、七尾からの往復 3 時間近くの移動時間を、被災者に寄り添う時間に使えることとなります。

七尾市では公費解体を申請した家屋の 4 割が、いまだに片付けを終えていません。より多くのボランティアの力を必要としていますが、ボランティア参加者は減るばかりです。現場では、新たな自然災害が発すれば、「のとは忘れられる」との危機感が広がっています。被災者とボランティアを結ぶ役割を担う「おらっちゃ七尾」の今井さんは見かけ上の復興が進む今からこそ、そこから取り残される人たちが見えなくなることを心配しています。壊れた暮らしの中にとどまり、社会との接点を失う人が増えないように、これからさらにローラー訪問（1 日 40～50 軒のお宅を丁寧に訪問し、お手伝いの要望を聴き取る）に力を注ぐと言います。今井さんの言葉は、阪神淡路大震災以来、教区が大切に掲げる「谷間に置かれた人びと」への目線、意識を強く感じさせてくれます。おらっちゃでは、作業終了後に参加者が集まり、分かち合いの時間を持ちます。司祭はいない、聖書と祈りはないけれども、これが教会の姿ではと、 毎回、感じさせられます。

戦後 80 年のヒロシマで考える

阿倍野教会　嶋田（しまだ）　奈々（なな）

　　戦後 80 年という節目を迎えた今年、 8 月 5～6 日で広島に行ってきました。 コロナ以前はほぼ毎年訪れていた広島ですが、コロナ以後初めての訪問でした。

　インバウンドもあり、平和記念資料館を含む平和記念公園は老若男女・国籍問わず多くの人で混雑していました。

　５日の午後に行われた広島教区平和行事プログラムのシンポジウムでは松浦司教をはじめ、ノーベル平和賞を受賞された日本被団協の方、 韓国やアメリカの司教の方のお話を聞きました。

　皆、核廃絶を訴え、平和な世界を実現するためにはどのように行動すべきかを話していました。

　日本被団協代表の方は、「核兵器の問題は平和活動や被爆者の問題ではなく、一人一人の問題として核兵器を捉えなければなかなか廃絶にはならない。ノーベル委員長は、この戦争や核兵器の問題は被爆者や戦争を体験した人だけでなく、若い人たちが引き継ぐことが必要だ、と言っている」という話をされていました。

　６日の午前、 広島平和文化センターが主催している “全国こども平和サミット” を見学させていただき、全国の児童・生徒が行なっている平和への取り組みの発表を聞かせていただきました。

　プログラムの中には、被爆体験記朗読ボランティアの方の被爆体験の朗読もありました。 被爆者の方たちの活動が、 若い世代にまで広がっていることを実感しました。

　『最近調子はどうですか？ 周りの様子はどうですか？いきなりですが世界を変えませんか？』

　これは、緑黄色社会の「Don!!」という曲の歌詞の一部を抜粋したものです。 最近の世界情勢、そして日本情勢はどうでしょうか。

　聖書の中で、イエスが死刑の判決を受ける箇所には「十字架につけろ」と叫ぶ群衆の様子が書かれていますが、最近の日本に重ねてしまうことがあります。

核を保有することが安全保障に繋がる、といった主張をする人たちがもっともらしい理由とともに、SNS 等で情報を発信しているのを目にする機会が増えました。 その人たちの言葉だけを聞き、流され賛同する人が増えていると感じます。

それはやがて大きな力、“群衆”になっていくでしょう。「十字架につけろ」と叫ぶ群衆と同じです。

しかし、この“群衆”の中に紛れて、『みんな言っているから正しいことなのだろう』 や 『ここで違うと主張したら、 批判されるのではないか』 といった声を上げない人も、大勢存在しているのではないでしょうか。

この歌詞は、このように続きます。

『みんなと違うこと　みんなとしたいのだ　手を取って抱き合って互いをみとめて
僕らそれができる生き物だろ？　争いは何も生まないよ』

大勢が言っていること・やっていることが必ずしも正しいこととは限りません。 何が大切でどのような未来に繋がるか、それを見極め、声を上げていかなければならないと思います。

そして安全や平和は、核武装や武力行使をちらつかせて得るものではありません。

歌詞にある通り、『手を取って抱き合って互いをみとめて』 話し合いをして作りあげていくものであると考えます。

『変わる世界が見たいですか？その為ですが最後にひとつだけ　自分を変えませんか？』

日本被団協がノーベル平和賞を受賞するまで、被爆から 80 年かかりました。いきなり世界を変えることはできないかもしれない。しかし、一人一人が今の自分を少しずつ変えて、 声を上げ、周りと対話を重ねいくことで、少しずつ世界は変わっていくのかもしれません。

変わる世界が見たいのなら、まずは自分の一歩から。 私たちが次の世代へ引き継ぐまで、学び声を上げ、対話し続けたいと思います。

長生炭鉱の史跡から８３年を経て遺骨発見

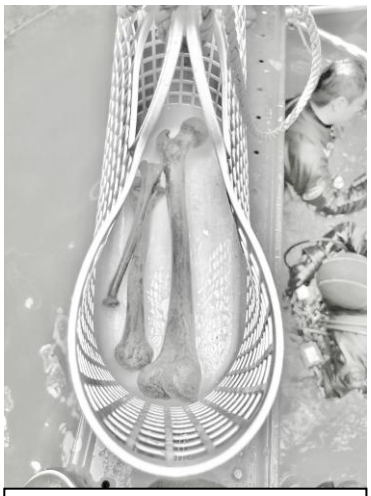
フリーライター　大元（おおもと）　麻美（あさみ）

大日本帝国が朝鮮半島を植民地にし、 朝鮮人を強制動員した事実を「無かった」ことにしようとする〝歴史修正主義〟の動きが近年、活発化し、 日本史の教科書などから史実が消され始めている。

こうした中で、 今年８月２５日と２６日、 多くの朝鮮半島出身者が働かされていた山口県宇部市の床波海岸にある「長生炭鉱」の史跡から人骨が発見された。

第２次世界大戦下の１９４２年２月３日、 長生炭鉱株式会社三井炭鉱長生営業所（事故当時）の海底炭鉱で天井が抜け落ちる水没事故（水非常）が発生し、 作業員１８３人が水死した。朝鮮半島出身者は１３６人、 日本人は４７人だった。 そのうちの４人の遺骨が、 「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」（以下「刻む会」）が実施してきた同炭鉱の遺骨収容を目指す第６次潜水調査で発見されたのだ。

今回、 陸上に引き上げたのは４体の遺骨のほんの一部だが、 来年２月１日に始動する「長生炭鉱遺骨収容プロジェクト２０２６」で、 ４体の「全身骨」を引き上げる計画が立てられている。



83 年を経て、長生炭鉱の史跡から発見された人骨

今回、 韓国人ダイバー２人が発見した４体の遺骨は、 全身がそのままの形で残っている「全身骨」だった。 その中には長靴を履いたままという痛々しい遺骨もある。 ８３年間、 冷たい海中の本坑道に閉じ込められていた遺骨は石炭の粒子でまっ黒に染まっていた。

事故当時、 会社側は被害の拡大の恐れがあるとの理由で、 水没直後に木のふたで坑口を密閉したため、 犠牲者は逃げ道を失った。救助活動も一切行わず、 ８３年間、遺骨収集も行ってこなかったのだ。

長生炭鉱は、 地元では「朝鮮炭鉱」と呼ばれていたほど、 戦争のために石炭を増産する目的で大勢の朝鮮人を〝奴隷状態〟で働かせたことで急成長した中堅会社。

海上の音が聞こえるほど浅瀬の炭層で、 危険な強制労働が継続され、 宿舎では逃げることもできない監禁生活を強いられた。

日本基督教団宇部緑橋教会内に事務局を置く「刻む会」と国会議員有志らは９月９日、 東京・千代田区の参議院議員会館で、 警察庁と厚生労働省、 外務省に対して速やかなＤＮＡ鑑定と、今後の潜水調査等への経済的支援を求めたが、 厚生労働省は 「安全性が確保されていない」 ので協力できないと繰り返すばかりだった。 今後もこの政府交渉は続けていくという。

排外主義が吹き荒れる日本社会で、 これ以上彼らの命の尊厳を蹂躙してはならない。

（写真提供＝長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会）

隣人との新しい関係を求めて

事務局　大森（おおもり）　雄二（ゆうじ）

神戸・南京をむすぶ会の第 24 回フィールドワークに 8 月 13 日から参加してきました。

団長の宮内（みやうち） 陽子（ようこ）さん（元シナピス職員）から 「最後のツアーになるかもしれない」 と聞いていたので、ここ 20 年程は取れなかった夏季休暇というものを利用して、勢いで申し込みました。

「私たちは侵略者の末裔として慰霊と学びの旅に参ります」。

お盆休みの旅行客でごった返す関空での団長の挨拶には、背筋が伸びる思いがしました。

現地・南京では、虐殺の現場やご遺体の埋葬地を訪問し、慰霊碑の前で黙とうを捧げて回りました。 碑文には、そこで起きた悲惨な出来事を記したうえで、死者を慰め、歴史をしっかり記憶し、その教訓を忘れず、これからの中国の発展に励もうという内容が書かれていたと思います。

15 日は、侵華日軍南京大屠殺遇難同胞紀念館での追悼式典に参加してから、一般の見学者より 1 時間ほど早く、私たち日本人のグループだけ先に紀念館を見学させていただきました。中国人との接触を避ける配慮からです。でも膨大な展示は、とても 1～2 時間で心にしまえるものではありませんでした。

南京大虐殺とは何か、それ以前の侵略の歴史から含めて、旧日本軍が犯してしまった過ちの巨大さが、実体を伴って迫ってくるようで、歴史につぶされそうな自分を感じました。

白を黒と、黒を白と言えないように、教科書でいくら言葉を変えたところで、なかったことにはできないのが歴史です。「子や孫の代まで謝罪を続けさせるわけにはいかない」と言われる方がたが、戦前を美化し、戦争だから、どこの国もやっていたことだから、世界情勢の中で仕方がなかった等々、言い訳や開き直りを一方であらわにしながら、謝罪の言葉を吐いたところで、届けるべき人に届くわけはありません、心がないのですから。

先の選挙から、一段ギアを上げた外国人ヘイトの空気が漂う日本社会で、伝統的な嫌中、嫌韓の意識は、ＳＮＳやメディアの力を借りながら、根強く生き延びていると思います。

一方、８月の中国では、 旧日本軍が撮影した虐殺の写真(写真館店主が焼き増しして、それを中国員たちが命がけで守り、戦後の戦犯裁判の証拠となる)をテーマとする映画『南京写真館』が大ヒット中でした。そして今は、731 部隊をテーマにした映画が大ヒット中です。

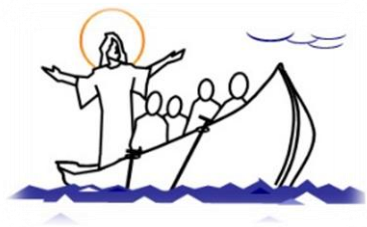
それでも日中不再戦を本気で望むなら、私たちはまずもって 明治以降の東アジアへの侵略の歴史、特にそこでの加害の事実に目を向けるべきではないでしょうか？ それを支えた日本人の差別意識と共に。

中国人が求めているのは、 私たちが謝り続けることではなく、歴史の事実を踏まえたうえでの誠実な謝罪だと思いたいのです。

暑い暑い南京の旅から帰って来て、ずっと考えていることです。

海を挟んで、ミサイルを並べて向かい合っていては、平和は絶対に生まれないと思うので。

本の紹介：『日中戦争への旅　加害の歴史・被害の歴史』　宮内 陽子著　合同出版
「神戸・南京をむすぶ会」の訪問団の記録です。南京以外にも多くの訪問地について書かれています。



投稿欄　ガリラヤの風

＊シナピスニュースに丁寧な感想を寄せてくださる、 掛川市の衣笠(きぬがさ)さや子さんからの声を抜粋してお届けいたします。

《高齢者について・・・》

私は子どもの頃から、 祖父母と一緒に暮らしていました。 祖父母は、 年寄りというだけで引け目を感じていたようでした。 体が思うように動かなくなり、 つらいことも多かったと思います。

私は、 祖父母のことが好きでした。 「何かができるから生きる価値が有る」 というわけではないと思います。 生きるということは、 どういうことなのでしょうか。 その人の人生を大切に生きていってほしいと祖父母から沢山プレゼントをもらったように思います。 ジョン・ベーニンガムの絵本 『おじいちゃん』 が私は好きです。 私も高齢者になりつつ有りますが、 生きてゆくための知恵を高齢者は持っているように思います。 子どもの頃の話をしてくれたり、 楽しかったことを覚えています。 今の日本は、 高齢者を邪魔者扱いするところが有ると思います。 誰も邪魔な人なんていないと思います。

《釜ヶ崎について・・・》

釜ヶ崎には 17 歳の高校生の時に行かせていただき、 その時、 薄田昇(すすきだのぼる)神父のお話を聞きました。 その中で、 今も心に残っているのは、 「本当にその人がして欲しいかどうか聞いてからしなさい」 ということです。 毛布でも、 豚汁でも、 配る前に 「要りますか」 と聞いてから渡しなさいとおっしゃっていました。

私自身も反省しているのですが、 ついつい人に押し付けてしまうことが多いと思います。 反対に、 自分が今してほしいことを正直に伝えてゆくことは、 勇気が要ると思います。 でも、 少しずつ寄りそって、理解し合えたらと思います。 生きづらさというものは、 私も感じています。 それは釜ヶ崎の方もそうかもしれませんが、 働けない現実を思い悩み苦しんでいます。 人間関係が下手な私です。 皆さんはいかがでしょうか。

《戦争と平和について・・・》

松浦謙(まつうらけん)神父が、 広島のことを書いておられました。 私も二十代から反戦について書いています。 それはどうしてかというと、 自分のことを加害者だと悩み苦しんできたからです。 身近な人間関係の中で、 どれだけ人を傷つけてきたか、 分かっていたからです。 戦争と関係がないようで、 そのことを思うとき、平和の問題を考えています。 人間は時には戦います。 でもお互いに戦わず、 話し合うことが出来ればと思います。・・・人間は、 加害者にもなってしまうことを忘れてはいけないと思います。 時代の大きな流れの中で、 私一人では何も出来ませんが、 カトリックの愛の精神やイエス・キリストの教えが生かされてゆくことを願っています。 誰でも悪を持っており、 私もそのことに苦しんできた人間だから、反戦運動をしているのだと思います。

《カフェについて・・・》

平和ということを思う時 、難しいことを考えず、 一緒にお食事を取るということを思います。 シナピスカフェも楽しそうですね。 山田さんはお誕生日サプライズだったのですね。 おめでとうございます。 私は静岡県に住んでいるので、 カフェには行けませんが。

私は明石市にいた頃、 友人達とそれぞれがぶつかっている問題など、 色々と話しながら食事を共にしました。 とても楽しかったです。 そういう一見何でもないようなことが平和につながってゆくような気がします。 共に生きてゆくこと、 人とつながってゆくこと、 とても大切だと思います。

助け合いの精神と愛のリレー

事務局　山田（やまだ）　直保子（なおこ）

９月の初めの朝早く、中国人一家５人が「助けてください」とシナピスに駆け込んできました。 子どもたちは下の子が５歳と小さく、 まったく日本語ができないので、 翻訳機を使って聞くと、 昨日関西空港に着いて空港で夜を明かし、 大阪のカテドラルと検索して、 こちらに来たようでした。 とても熱心なカトリック信者でした。 疲れ切っていたので、 シナピスの相談室で休んでもらいましたが、 今日の宿泊先を探すことが先決でした。

家族は聖職者の通訳を望んでいたため、 中国語のできるシスターにお願いしましたが、 毎日の通訳は不可能なので、 日常生活の通訳をしてもらうため本人の許可を得て、シナピスで一般の方を対象に通訳を探しました。

通訳と泊まれる場所探しに苦労していたところ、 その日たまたまシノドスの学習会があり、 全国から司教が来られていました。 シナピスに顔を見せに寄ってくださったアベイヤ司教や菊地大司教、 松浦悟朗司教に、 とても大変だという話をしたところ、 菊地大司教のご紹介ですぐに電話で通訳してくださった名古屋のヤン神父、 シェルターも大阪で見つからなかったら名古屋のシェルターがすぐに利用できるよう松浦司教が段取りしてくださって、 どれだけ心が救われたかわかりません。

司教方とシナピススタッフ

当日はなんとか釜ヶ崎の「旅路の里」に宿泊をお願いできたので、スタッフが連れて行き、 休んでもらいました。 釜ヶ崎で３泊してもらいその間に、 シナピスホームの３階に住めるよう、 松浦謙神父を通してフランシスコ会にお願いをしてもらい、ホームに住めるようになりました。

週末を挟んでいたので、 なみはや教会に行くと、 その日のミサの説教が中国語の日で中国人が数名いたので、シスターのご協力で、 なみはや教会の中国人のコミュニティに入れたようでホッとしました。

そして、ホームに引っ越す日には、 中国語の通訳として、 以前シナピスで支援していた女性が手伝いに来てくれました。 私は朝からホームで受け入れの準備をし、一家は釜ヶ崎でのチェックアウト後にシナピスに来ていました。 そこに、なみはや教会の中国人コミュニティの一人が来てくれて、 アベイヤ司教が紹介してくれた名古屋のジョン神父が来てくれました。 ジョン神父はなみはや教会の中国人グループとつながっていて、 一家がシナピスにいることを聞いて、 寄ってくださったのです。 そこから、 一家と共にホームに来てくださり、 ルールの説明や、近所の案内も一緒に来てくださり、スーパーはここにあるなど、 全ての通訳を引き受けてくださりました。

なんと心強かったことか！そして、ジョン神父は翌日名古屋に帰る予定だったのに、 一家の事情を聞き、 心配で眠れなかったと翌日も朝早くから電話をくださり、 「言葉が通じないことや、 これから様々な手続きをするために私も付き添います」と、 そこから 2 泊してくださり、難民申請や在留資格変更の手続きが言葉に困ることなく滞りなくできたのです。

私は、 「言葉が通じない、どうしよう」から、 司教や神父、 シスターたちや仲間たちが次々と協力してくださっていくこの現実に、 神様がなせる業だと心から感じることができました。

本当にいつも思いますが、 どんなに困難な事例でも、 どんなに心が折れてしまうような出来事に直面した時でも、 ふと思い返せば神様がそばにいてくださると感じるのです。

今回も奇跡の連続が何度も重なり、 神様がそうさせるように動かしてくださったとしか思えませんでした。

そして、 そう感じさせてくれる環境は決してあたりまえではなく、 全員が福音を胸にチームで動いているシナピスだからできる事なんだと思いました。

このことに感謝をして、 これからの一家の支援を頑張っていきます。

事務局こぼれ話

事務局　ビスカルド篤子(あつこ)

8月２５日　みっともない人

大阪入国管理局の２階は、 在留資格の手続きや再入国許可を取る人でいつもごった返しています。この日も、受付には長蛇の列と番号札を手に待つ人が階下まで溢れていました。

ある人のビザ申請に同行して廊下にいたら、 フロアの中から男性の怒鳴り声が聞こえてきました。人びとは声の主に目をやり、 入管職員が様子を見に行く姿がガラス越しに見えましたが、 喧嘩などではなく、どうも夫が妻に罵声を浴びせているようでした。 申請用紙の記入にもたつく外国人妻を、 何もしない夫が頭ごなしに怒鳴り散らしているのです。

私は大声で怒鳴る男性に近寄り、「どうされました」と声をかけました。不意を突かれてびっくりしたのか 「いや、ビザ更新のたんびに、 これ（妻）がよう書きよれへんから腹立って…」 と急に小声になりました。 「そやから言うて怒鳴るて何ですか。 やかましわ。 みっともない」。 私は縮こまる妻に「わからないところ、 手伝いましょうか」と言うと、 妻は「何書いていいかわからんです」と、 私に書類を全て見せました。

日本人でも慣れていなければ申請用紙の記入は難しいものです。 私は男性に椅子を用意して座ってもらい、 項目ごとに夫婦にわかるように声に出して読み上げながら作成していきました。 提出資料には、 戸籍謄本や夫の障がい者手帳など不必要な物も混じっていました。 妻の証明写真は古かったので撮り直してもらい、 書類の出揃ったところで私は夫に「ホナ、 一緒に行ってきますからここで待っててください」と断って妻と列に並びました。 妻は 「お父さん、 優しい人けど、外行くと怒鳴るばかり。 恥ずかし」とこぼしていました。 外ヅラよくて家庭内で暴力をふるうタイプと、 家ヅラ（？）よくて外で威嚇するタイプと、 「嫌な夫」にも色々あるものだと溜息が出ました。

番号札をもらったと聞いた夫は、満面に笑みをたたえました。 「おっちゃん、 笑ろたらエエ顔してんのに、 奥さん怒鳴り散らすんはナシやわ。 聞こえた皆が嫌な思いする。 ホンマ気ぃ悪い」。こういう性分の男性に、 行きずりの人間が説教垂れてもどうにもならないけれど、 私は自分の正直な気持ちを言わずにはおれませんでした。

９月15日　オジジ、大好きだよ

長年にわたり入管への面会ボランティアを続けておられる塩見真知子さんの夫の一仁(かずひと)さんが、 去る7月18日に急逝されました。 一仁(かずひと)さんは難民の引っ越しや荷物運びのためによく車を出してくださり、 朗らかなお人柄のうえにダンディで素敵な方でした。

この日、 清水谷高校や豊中高校、茨木高校で教えておられた一仁(かずひと)さんへのお別れの会が開かれ、多くの友人や同僚、 卒業生たちが集い、 在りし日の塩見先生を偲びました。

会の終わりに，塩見さんの孫の爽(さや)さんが作文を朗読しました。 とても心を打たれたので、 ここに紹介させていただきます。

「湯(ゆかん)灌」

塩見(しおみ)　爽(さや)　（11歳）

７月18日午前９時50分。 お祖父ちゃんが亡くなりました。
訪問看護師さん２人と、 私たち３人の孫で祖父ちゃんの湯灌(ゆかん)をしました。

まず髪の毛を洗うために、 紙オムツ２枚を切り開いてお祖父ちゃんの頭の下に敷きました。ポリマーの吸水力でベッドが濡れないからです。いつも私がゴシゴシ洗うと「痛いよ！」と必ず文句を言うので軽くしか洗っていませんでしたが、もうなにも言わなくなったので思いっきり汚れを取り清潔にしてあげました。ペットボトルのお水を何回もかけてシャンプーを流し、 ドライヤーをしました。
抗ガン剤治療で髪の毛が抜け、少ししか残っていなかったので直ぐに乾きふわふわになりました。
次に髭を剃りました。 髪はぜんぜん伸びないのに髭はどんどん伸びていました。 私は髭が無いので髭剃りはどうしたら良いのかわからなくて、 すごく難しかった。 だからお姉ちゃんと交代しながら剃っていたら、 だんだん巧く剃れるようになり、すっかり髭がなくなりサッパリしました。少し若くなったので、 お祖父ちゃんはなんだか嬉しそうでした。
今度は体を拭くためパジャマを脱がせましたが、アッチに向けたりコッチに向かせたりしてなかなか大変でした。 お祖父ちゃんはジュースやゼリー以外あまり食べていなかったのでガリガリでした。
足から拭きました。 足はお風呂でしゃがんで洗うのがかなり大変だったので、 ちゃんと洗えていませんでした。 だから８つの指の間も丁寧に拭いてあげました。 その次は背中です。
もうオジイチャンの背中を洗ってあげられないので、これで最後かな・・・急に寂しくなってきました。そして窪んでしまったお腹も、 悲しかったです。 胸はポートが埋め込まれているのでボコボコしていて、ずいぶん苦しかっただろうなぁと、 可哀想でしかたありませんでした。
お尻もしわくちゃでしたが、 キレイにしてあげました。
最後に歯をキレイにしました。昨日、おばあちゃんが口の中をキレイにしましたが、まだ少し汚れが残っていたので、歯間ブラシで取り除いてあげました。 毎食後お祖父ちゃんは、 20分くらいかけて洗面所で磨いていました。でも、途中で疲れて休憩ばかりしていたので、 ちゃんと磨けていなかったのだなぁ。
全身ピカピカになったので、 お祖父ちゃんお気に入りのシャツと、 ２ヶ月ほど前にネットでお祖父ちゃんが元気になったら履くつもりで買ったジーンズを着せてあげました。 脱がすのと同じくらい着せるのも難しかったです。 しあげに髪を梳いてあげました。
死んだら顔色がだんだん悪くなってしまうので、最後にお化粧をしてあげました。頬紅と口紅も塗ると、元気なお祖父ちゃんになったみたいで、生き返ってくれたら良いのになぁと思いました。
オジジ、大好きだよ。ありがとう。

たくさんのご協力
ありがとうございます。

〆切間近！

乳幼児の難民を助けよう キャンペーン

期間限定 10 月末まで！

＊振込は、このページの右下から

わたしたちにもできることがある！

排外主義反対

▶子どもの強制送還をやめて オンライン署名
https://www.change.org/nannmin_children

▶難民・移民と“ともに生きる”を考える
オンライン集会 10 月 19 日（日）19 時～
https://x.gd/Xz1RC

ジェノサイドに抗議

▶パレスチナ国家承認の嘆願書名
https://www.change.org/Palestine_State_Recognition

▶追悼イベント 10 月5日（日）17 時～
JR 元町駅東口 https://x.gd/kWuhm

「ニュースレター配布停止」、「点訳版の郵送」を
ご希望の方はシナピスにご連絡ください。
☎06-6942-1784

シナピスホーム（カフェ）

10 月の予定

カフェ：11 日
★土曜日の 13 時頃～16 時頃

ランチ：４日
★土曜日の 11 時頃～16 時頃
★ランチは要予約
☏ 080-8940-8847

あとがき

ニュースの印刷の前に、すべての原稿を読み合わせ、最終チェックを行います。今月号のそれを終えて、ふと思いました。テーマは違えど、投稿を寄せてくれた方、常連の執筆者、みな同じようなことを言っているのでは、と。
部門長である酒井司教からよくいただく言葉は「決して上から教えないでください。みな、わかっていますから」。
原稿の一つ一つが、日本の今、世界の今をわかりやすくお届けできているか。思いを分かち合えているか。
感想、批判、お叱りだけでなく、活動や生きづらさの分かち合い、大歓迎です。どしどしお寄せください。
教会が目指す、社会の福音化。このニュースレターが少しでもその刺激になれたらうれしいです。（ゆうじ）

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆広報活動
・教皇メッセージ、司教団メッセージ等
社会活動の指針の伝達
・読者と教会内外の社会活動をつなぐ
機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪高松教区・社会活動委員会との連携
◆学習会研修会の企画
◆こども基金
世界・日本のこどもたちへの援助
◆日本カトリック司教協議会との連携
正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣
◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ
◆難民移住移動者支援
難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル
☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22
カトリック大阪高松大司教区事務局内

●公共交通機関ご利用の場合
JR 森ノ宮駅より 約 1000m
地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m
JR 玉造駅より 約 1000m
地下鉄長堀鶴見緑地線玉造 1 番出口より約 800m
●車でお越しの場合
阪神高速１３号東大阪線法円坂出口
法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいします

□郵便振替 00960-7-61419
加入者名 カトリック大阪高松大司教区シナピス
代表役員 前田万葉

□三井住友銀行 玉造支店 普通 9401958
カトリック大阪高松大司教区 シナピス
代表役員 前田万葉

□オンラインはこちら ➡➡➡